

平成 29 年 2 月 28 日

図書印刷株式会社
代表取締役社長 川田 和照 様

株式会社ストラテジックキャピタル
代表取締役 丸本 隆



昨日付で当社が公表した中期経営計画について

弊社は、INTERTRUST TRUSTESE (CAYMAN) LIMITED SOLELY IN ITS CAPACITY AS TRUSTEE OF JAPAN-UP (以下「ファンド」といいます。)と投資一任契約を締結しており、ファンドは図書印刷株式会社 (以下「当社」といいます。)の発行済株式総数の約 5%を保有しております。また、弊社自身も当社株 1,000 株を保有しております。本書面では、弊社は当社の株主の立場から、当社が昨日付で公表した「中期経営計画 (2017 年度～2019 年度) の策定のお知らせ」(以下「中計」といいます。)について意見を申し上げます。

1. 投資額について

中計では、事業構造転換や新市場創出の積極投資等として、事業構造転換に 100 億円及び事業領域拡大に 200 億円、合計 300 億円の投資が予定されております。弊社は、当社にとって、3 年間で 300 億円の投資は過大であると考えます。300 億円の投資が無駄となり、リターンが上がらない事態が危惧されるのです。少なくとも、株主にとって納得のできる具体的な投資計画の内容やそれぞれの投資に対する収益予想が開示されない限り、このような無謀な投資には反対いたします。

2. ROE の向上と純資産の縮小について

中計では 2019 年度に目標とする償却前営業利益が 54 億円となっており、純資産の約 1/12 に過ぎません。さらに ROE の目標が僅か 1.7%とは、何かの間違いでしょうか。是非とも、当社の純資産が大き過ぎるため資本効率が非常に悪くなっている現状を、変えていただきたいと存じます。そのためには、大規模な株主還元が必要です。

過大な投資を減額し、そして、ROE 向上のためにも株主還元を拡大していただきたく、強くお願い申し上げます。

投資を減額するとしても、個別の投資案件やその収益計画など、中計の具体的内容について、投資家説明会を開催してご説明いただきたく、お願い申し上げます。

以上